

視点

View Point

な か む ら ま こ と

中村 誠氏

長野商工会議所 副会頭

「地域経済・地域社会の活性化と質的豊かさの実現」少子高齢化・人口減少社会への挑戦」を目指し、八十二長野銀行では、事業者の皆様の実現、持続的な成長を支援するために、現在、総合コンサルティング機能を強化しています。地域の活性化という目標を同じくする長野商工会議所と連携しながら、個の力を面の力として、事業者の力強い伴走者になりたいと思っています。

個の力を結集し面の力として、 事業者の思いを実現する伴走者に

事業者がしっかり挑戦できる 伴走支援を

—— 長野商工会議所副会頭に就任いただきました。どんな思いでいらつしやいますか。

中村 非常に光栄に思っております。長野商工会議所は県都の商工会議所であり、規模においても長野県経済を牽引する存在です。就任から半年が経った今も、副会頭という立場の重責を感じています。

長野商工会議所には、グローバルな展開をしている製造業者があり、生活に密着して地域を支える企業あり、東京に本社を置く上場企業の支社支店もあり、多様なメンバーがバランスよく揃っています。部会や委員会の活動も活発で、特に脱炭素、地域イノベーション、女性活躍といった新しい動きをしっかりと捉えて対応されています。

私は自身の銀行におけるこれまでの経験や銀行のリソースを使い、長野商工会議所の活動ひいては地域に役立っていきたいと思っています。長野地域には今、多くの課題がありますが、一方で魅力ある資源や人材が多いことも事実です。会員企業の事業者がしっかり挑戦できる伴走支援を行って、長野市から地域活性化の流れをつくり、それを県全体につなげていきたいと考えています。

人口減少の影響が懸念される 経営上の課題

—— 長野市の現在の経済状況、中小企業が抱える課題について、どう認識されていますか。

中村 経済全般でみると、コロナ禍の後、力強さには欠けるものの緩やかに回復している過程にあります。4月にトランプ関税が発表された折に

PROFILE

1967年生まれ、長野県出身。
1990年3月東京大学経済学部卒業、1990年4月八十二銀行入行、2007年6月企画部副部長、2009年6月香港支店長、2013年6月上田東支店長、2016年6月大町支店長、2019年6月執行役員金融市場部長、2021年6月常務執行役員本店営業部長、2023年6月取締役常務執行役員、2025年6月取締役専務執行役員、2026年1月八十二長野銀行取締役専務執行役員

は、不透明感が強まり不安も高まりましたが、こちらも落ち着いてきています。設備投資や消費もまずまず順調です。住宅が価格高騰の影響を受けて回復が弱いようですが、総じて賃金等も上昇し、好循環に入る兆しがあると捉えています。

中小企業が抱える課題には、少子高齢化、物価高、DXや気候変動への対応などがありますが、いちばん大きなものは、人口減少がもたらす影響でしょう。人材確保、事業承継で悩んでいる方が多いです。市場自体が縮小することも懸念されます。むろん、こうした課題は長野だけの話ではなく、全国等しくあるわけですから、そこを解決できればチャンスはあると思っています。

また、長野の強みとして、観光とりわけインバウンド需要が拡大していること、首都圏からのアクセスの良さも手伝い、移住希望地として注目されていることが挙げられ、これら利点を活かす方法もあるはずです。

一人ひとりの事業者の個の力を結集して面の力とし、地域全体が発展することが望まれます。

総合コンサルティンググループへの 飛躍

—— 八十二長野銀行が誕生しました。今後貴行は地域でどんな役割を担っていくれますか。
中村 今回の経営統合には、地域経済が縮小するなか、2行がひとつになり、集中して地域の活性

化に取り組んだ方が良いとの思いがありました。

2024年5月には、経営統合を踏まえて新銀行が何を目的にどこへ向かっていくのか、その指針となる価値創造プロセスを作成し、私たちが実現したいアウトカムを「地域経済・地域社会の活性化と質的豊かさの実現」「少子高齢化・人口減少社会への挑戦」と定めました。

とりわけ、重要なステークホルダーである、地域社会・お客様に対しては、県民一人あたりGDPの成長・資産の増大、地域の中核となる企業の成長や新たな企業の育成を柱とする地域経済の活性化、脱炭素、生物多様性、地域の文化・観光資源の発展と次世代への継承を、統合した銀行においても実現したいと内外に示しました。

この価値創造プロセスのもと、10年後を見据えた中期経営計画では「魅力ある未来を地域と共に創る」を長期ビジョンとし、さらに当初3年間で「総合コンサルティンググループへの飛躍」を掲げ、金融のみならずコンサルティング機能をしっかりと発揮してお客様に還元していきたいとの方針を明確に打ち出しました。

事業環境が劇的に変化するなか、企業のありたい姿の実現、持続的な成長を支援するため当行では、経営計画策定をはじめとする経営戦略、人材確保や事業承継にも関わる組織・人事戦略、IT／DX戦略、海外販路開拓などグローバル戦略のほか、サステナビリティ分野においてコンサル

DATA

株式会社八十二長野銀行
【設 立】1931年8月1日
【所 在 地】長野市大字中御所字岡田178番地8
【T E L】026-227-1182
【事業内容】銀行業

横顔

長野マラソンに10回、かつて赴任した香港やシンガポールの大会にも出場し、最高記録は3時間28分。フルマラソンを走らなくなった今も、週末のランニングを趣味にしている。